

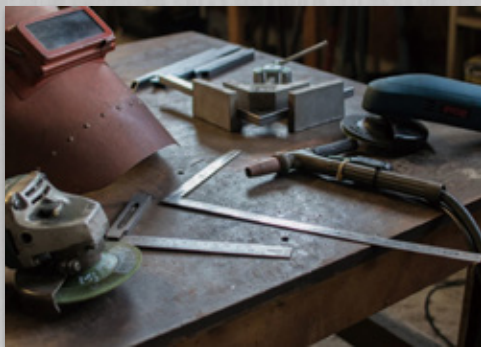
多様な産業を支える 高度の溶接技術

大阪・泉佐野市

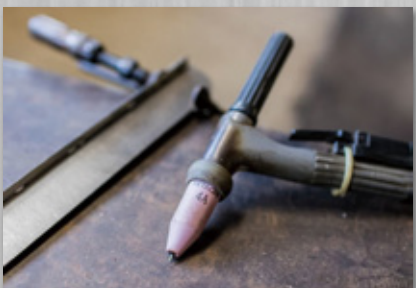
株式会社エステック



日本が誇るモノづくりの原点



様々な溶接技術を駆使



日本が世界に誇るモノづくり。その原点といわれる技術、溶接技術の高さで存在感を高めているのが、溶接のプロ集団、大阪・泉佐野市の『株式会社エステック』だ。職人の誇りをかけて、溶接の品質の良さと美しさを徹底追求する仕事ぶりが評価され、全国から加工依頼が舞い込む。

溶接は、金属同士の接合部に熱を加えて溶かし、その後、冷却することで接合が完成する加工技術。アーク、ガス、電子ビーム、レーザーの4種類の方法があり、様々な産業分野の製品製造、構造物構築に使われるが、同社の実力が光るのが不活性ガス溶接のTIG(ティグ/Tungsten Inert Gas)溶接。アーク放電を利用した接合法であり、鉄やステンレス、マグネシウム合金など導電性を持つ金属であれば、ほとんどの素材に対して利用できる。

また、不活性ガスシールドによる融接のため、不純物の混入が極めて少なく、仕上がりの美しさや耐久性といった品質面で信頼性が高いのが特長だ。同社では、使用するシールドガスについての知識、選定、品質管理にも磨きをかけ、お客様の期待を超える仕上がりを実現できるよう努力している。

仕上がりの美しさ 精密さに高評価



発注元の要望に的確対応



プロ集団の誇りと高精度の技術力



このほか、TIGと並ぶ不活性ガス溶接で金属電極棒が溶加材溶接のための材料として送給ローラーで自動的に母材に送り込まれ、美しい仕上がりと早い溶接スピードが特長のMIG（ミグ / Metal Inert Gas）溶接やトーチで加熱して溶かすワイヤーが自動で供給される半自動溶接、溶接したい2片の金属母材を上下から電極で挟み込み接触部を電極で加圧して発熱、溶融させて接合するスポット溶接などの技術を持ち、製品や構造物に応じて使い分ける。

これまで同社は、品質やコスト、納期を重視し、溶接対象物のサイ

ズや数量を問わず、ミリ単位まで設計図や要望に添えてきたが、危険な化学物質や可燃物の漏れが絶対許されない石油精製や石油化学のプラントを構成する構造物や貯蔵設備、配管、ポンプなどの装置、圧力容器、フランジ、建設機材、機械、重機、自動車部品など人命に関わる重要な製品が多いのも技術への信頼度の高さを示す。

「現状に満足することなく、進歩する技術に追随しながら多様な溶接ニーズに添えていく」

溶接のプロ集団を牽引する代表取締役、田中清太さんの決意だ。